

令和4年度 学習分析事業 改善計画 三原市立久井小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	46.9	54.2	50.8	53.1	50.6
	本年度結果 偏差値平均	48.5	49.1	56	50	55.6	52
算数	前年度結果 偏差値平均	/	48.8	54.6	49.2	55.1	52.1
	本年度結果 偏差値平均	47.1	48.8	52.6	46.7	56.2	50.6
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	45.8	53.4	49.9
	本年度結果 偏差値平均	/	/	53.1	47.4	52.3	51.2
全体	前年度結果 偏差値平均	/	47.9	54.4	48.6	53.9	51
	本年度結果 偏差値平均	47.8	49	53.9	48	54.7	50.9

②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第6学年対象)

教科	国語	算数	理科
前年度結果 (対県比)	71 (107)	72 (102)	/
本年度結果 (対県比)	78 (116)	65 (101)	74 (112)

2. 調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて)	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)
<p>●国語 2年・「観察文・書き足す内容26%」「説明文・文章に合う図37%」3年・「観察文・書き足す内容26%」「説明文・共通点の考察30%」4年・「報告文・書き足す内容17%」「報告文・まとめを書く17%」5年・「報告文・資料から書く27%」「報告文・まとめを書く12%」6年・「話し合い・適切な資料」どの学年も情報処理能力に課題がある。</p> <p>●算数 2年・「新規ルール2位数14%」「形作り29%」3年・「おつりの計算の工夫11%」「丸い板・四角形の数11%」「グラフ修正理由の説明19%」4年・「二等辺三角形の説明13%」「二等辺三角形ではないもの選択23%」5年・「折れ線グラフの考察の3問23%31%38%」6年・「2つの円周の差の変化5%」どの学年も数学的に考えて考察する力に課題がある。</p> <p>●理科 4年「磁石になる鉄くぎの極7%」5年・「車が走らないもの15%」6年「ろ過した液の性質18%」</p>	<p>●国語科においては、全問、国・県平均以上であり得点領域のバランスも取れている。6年生までの書く力を重点とした指導の積み上げの成果であると考え。得点率が41%だった問題では、二つの文章を比較してもう一つの文章のよさを見つけるという複数の情報処理を必要とする内容であった。複数の事柄の整理と比較の思考能力を鍛える必要がある。</p> <p>●算数科においては、数量に関わる割合の問題が6問とも県平均以下であった。問題文の数値の意味理解がイメージできていないことが原因と考える。概念形成を具体的なかついねいに指導し、積み上げていく指導を行う。</p> <p>●理科においては、ほぼ全体が国・県平均以上であった。一問昆虫の体のつくりについて平均に到達していなかったため、再度指導する。国・県でも到達率の低い問題として、日光の反射角の内容があった。該当の学年で理解を図る指導を重点的に行い定着を図る取り組みが必要である。</p>

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全教諭が「単元を貫く問い」を意識した授業を実施できるようにする。</p> <p>○全教諭が、児童の主体性を伸ばすことを意識した多様な選択肢のある授業を実施する。</p> <p>○情報処理能力を高める観点から、教師が日常的に言語伝達への配慮を行う。</p> <p>○全担任が積み上げについて把握し、意識して指導にあたる。特に算数科においては定着を図り上位学年につなげることを確実にを行う。</p>	<p>①NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案。</p> <p>②全体研修による改善計画の共有をする。</p> <p>③管理職による授業参観を実施する。</p> <p>④学力調査問題における正答率の低い問題の学び直しをするとともに、類似問題を実施する。</p> <p>⑤全教員が全国学力・学習状況調査の誤答分析を行い実態把握し、課題のある問題の類似問題を実施する。</p> <p>⑥自由進度学習を取り入れた単元開発を、全教員が1単元以上行う。</p>	<p>①6月 ②6月 ③学期に1回以上 ④7月～8月 ⑤9月～2月 ⑥6月～11月</p>	<p>・Q-U2回目の学習意欲の数値 (全学級で全国得点+1以上)</p> <p>・各学期まとめテスト平均値 (全学級80%以上)</p> <p>(NRT評価12児童の正答率の上昇)</p> <p>・類似問題の正答率 (全学級80%以上)</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○児童が自分で考え行動する場や自分たちで決めた目標やルールを達成させる場を設定し、自治的な学級集団をつくりを行う。</p> <p>○月1回の生徒指導会議で子どもの様子やC-1やDに所属している子どもたちへの声掛けの実際を共有する。</p>	<p>①Q-Uの分析による実態把握と改善計画の立案。改善計画の共有。</p> <p>②毎月の生徒指導会議において児童の様子との交流。</p> <p>③給食の配膳指導を軸とした、自治的な学級集団作り。</p>	<p>①年間 ②年間 ③年間</p>	<p>・Q-U2回目の一次支援の数値の向上(全学年で1回目以上)</p>